

ごあいさつ



日本銀行甲府支店

支店長 長 江 敬

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年、国内では自然災害が相次ぎ、海外では米国トランプ政権の「米国第一主義」に基づく外交・通商政策が多くの人に様々な影響を及ぼしました。このように2018年は、国内外で不確実性が一段と高まった年であったと言えるのではないのでしょうか。

そうしたもとで山梨県経済は、製造業で高水準の生産が続くなか、企業の設備投資や個人消費が増加し、雇用・所得環境も着実に改善するなど、年間を通じて緩やかな拡大が続ききました。ただし、年後半には、当地主力の工作機械や半導体関連の企業から、米中貿易摩擦の影響等により受注が減少しているとの声が聞かれるようになりました。このように一部で変調の兆しがみられたところですが、昨年12月に公表した日銀短観では、県内企業の業況判断DIが良好な水準を維持するなど、県内経済が拡大基調にあることが改めて確認されました。

今年の県内経済を展望すると、基本的にはこれまでの緩やかな拡大が続くことが期待されます。もっとも、米中貿易摩擦の影響の広がりや10月の消費増税に伴う駆け込み需要と反動など、リスク要因が少なくないのも事実です。さらに、深刻化する人手不足、グローバル規模での情報化社会の進展など、企業にとって対応すべき課題が山積している状況でもあります。

このような厳しい環境が想定される時こそ、各企業が将来を見据え、生産性の向上や新たな付加価値の創造に向けて、設備投資や研究開発、時代の変化に即した形での経営体制の見直しなどに取り組んでいくことが求められます。日本銀行としても、そうした企業の方々の取り組みを強力な金融緩和で支援していく所存です。

今年は平成の時代が終わり、新たな時代が始まる記念すべき年です。新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますようご祈念申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。